

伊丹駅から4両目に乗り、乗客が突進してきて幾重にも覆いかぶさる。息ができなかつた。「このまま死ぬのか」。恐怖が全身を駆突然の激しい揺れ。「キ

JR事故 2年

刻印

□5□

2年前。いつものように通勤で利用している車内から、この「無人の廃墟」が目に入るたびに、あの日の情景とともに苦い思いが胸に込み上げる。

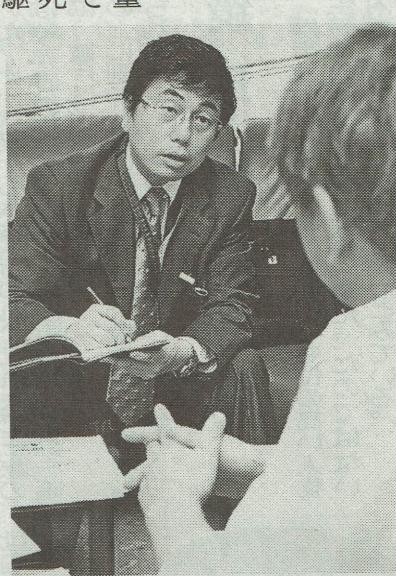
電車は塚口駅を越えたあたりから急速に減速した。ゆっくり、ゆっくりとマンションが近づく。JR福知山線。事故後も通勤で利用している車内から、「自分は何もしてやれなかつた」消えようとしていた一つの命の前で、立ち尽くす己の姿があった。

兵庫県伊丹市 江上善章さん（46）

念が刻まれた。

左肋骨の骨折に加え、頭部打撲で1週間以上、重い頭痛が続いた。

精密検査を受けようと、インターネットや雑誌で医



お子様用を「床間
黒6目半コミ出し
252手完
黒3目半勝ち

1	2	3	4	5
229	141	117	91	116
213	139	220	4	128
212	119	138	80	248
214	140	108	105	109
234	194	88	107	191
225	193	192	190	105
231	171	95	106	100
244	218	110	6	217
176	204	162	220	96
177	160	161	2	203
174	163	85	219	19
175	181			
180	[174]			

ワールド』がさえ
わたる。
この日も、控室
では「これは黒が

して、また五番勝負にて
てきたい」と静かに振り
返っていた。

(49)、直木賞選考委員に
浅田次郎さん(55)が加わ
ると発表した。今夏の第
137回選考委員会から
いふに分

役に立ちたい

悲鳴。一気に割れるドア

体の上に乗っていた乗客

脱線した車両近くの線路

上に、ジーンズ姿の若い女

ガラス。大きな衝撃音と
が声を掛け合いながら動き
出しそうやく自力で車両

もに車両が傾き、体が勢い
よく後ろに倒れ込んだ。他
の外へ脱出した直後だっ
た。素人目にも瀕死の状

態。顔がみるみる白く変色して
いく。目をうつろに開け、唇をかすかに震わせていた。

何か話した。「何か言い残したいこと

いた。なまぞうになる心を支え
られたのは、「今度こそだれか
の役に立ちたい」という信
頼の片隅でそ

て私が聞いてあげたら、残された家族に伝えることが
できたのに…」

心の奥底に、深い後悔の
情が脳裏から離れない

う思いながらも、体が動かなかつた。そもそも女性は駆けつけた救急隊員に青い顔がみるみる白く変色していった。

療機関を探した。だが、症状に合う病院が見つからなかつた。なまぞうになる心を支えられたのは、「今度こそだれかの役に立ちたい」という信念だけだった。

「無念の思いのまま亡くなってしまった犠牲者のためにも、生き残った自分ができる社会貢献がある。患者が安心して治療を任せられる医師の情報を探して、会員登録をするのはインターネットのウエブサイトだが、準備は難航を極めた。

情報はゼロだし、パソコンが、大の苦手。ファイナンシャルプランナーとして仕事を抱える身だ。「だれが素人の自己満足のようなサイトを見たときに、『医療情報サイトで患者の目線で医師と面会、人柄や診療方針、得意とする症例などを取材して回る日々が続く』と笑う人もいる。気持だけ始めて始めたサイトを今後も続けることが私の使命です」

医療情報サイト 患者の目線で

医師と面談し、診療方針などを取材する江上善章さん。「事故の教訓を伝え続けたい」と話す大阪府堺市の不妊治療専門「いしかわクリニック」

それから1年。仕事の合間に縋つて主に京阪神の医師と面会、人柄や診療方針、得意とする症例などを取材して回る日々が続く。

サイトに掲載した医師は既に約40人。運営は常に赤字だが、今や仕事以上のリスクワークだ。

「事故の教訓を忘れない。気持だけ始めて始めたサイトを今後も続けることが私の使命です」

（おわり）